

紙かうせん

KAMIFUSEN No.85

成田市立図書館だより 第85号

編集 成田市立図書館

〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3

<https://www.library.city.narita.lg.jp>

2018年（平成30年）3月31日発行

☎ 0476-27-4646（自動応答）

0476-27-2000（直通）

FAX 0476-27-4641



図書館利用マナー向上のため、汚破損等により利用できなくなってしまった図書の展示を行いました。
展示した図書は書き込みや切り取り、水濡れやペットによる噛み跡等、本の状態は様々です。
少しでも長く多くの方にご利用いただくために、利用者の皆様のご協力をお願いします。

（紙面紹介）

- ・文学講座『人生の宝物ー私を作った文学とアート』
講師：原田 マハ氏（作家）
- ・本館ミニ展示特集
- ・市史講座『もうすぐ50才！
成田ニュータウンの地理的特色』
講師：石毛 一郎氏（県立佐原高等学校教諭）
- ・杜のクリスマスおはなしかい
- ・音訣グループの紹介
- ・ほんかり君 ぬりえ

平成29年度 図書館文学講座 2017.9.2 (土)

「人生の宝物 —私を作った文学とアート—」

原田 マハ 氏 (作家)

原田マハさんの主な著作

『楽園のカンヴァス』	(新潮社)	2012年)
『暗幕のゲルニカ』	(新潮社)	2016年)
『サロメ』	(文藝春秋)	2017年)
『リーチ先生』	(集英社)	2016年)
『アノニム』	(KADOKAWA)	2017年)
『いちまいの絵』	(集英社)	2017年)
『たゆたえども沈ます』	(幻冬舎)	2017年)

2017(平成29)年度の文学講座は、第36回新田次郎賞を受賞された原田マハさんをお迎えしました。「人生の宝物—私を作った文学とアート」と題し、原田さんのこれまでの文学やアートとの出会いにまつわるお話、作品執筆のエピソードなど、人生の宝物について語っていただきました。



定員を上回る多くの応募があり、
当日は 280 名の方にご参加いただきました。

モナリザとの出会い

「人生の宝物」というと、様々あると思いますが、私にとっての宝物はアートと文学です。この2つのある人生でよかったと思っています」という語りから始まりました。まず、「皆さんにとってマイ・ファーストアート(アートとの出会い)ってなんですか?」と原田さんが質問すると、聴衆は自身の経験を振り返りながら、「いわさきちひろ」や「クリムト展」、「ディック・ブルーナ」と回答しました。

原田さんにとっての人生の宝物のひとつ、アートとの出会いは3歳のとき、自宅にある美術全集で見た「モナリザ」だったそうです。

原田さんの第一印象は「ほんものそっくり。見たままで絵に思えない」とのことでした。

10代20代の読書体験

講座で「この物語に出会ったから、今の私がある」と、宮沢賢治の『よだかの星』が紹介されました。宮沢賢治のような詩人になることが夢だった原田さん。色々読んだ中でも、『よだかの星』に特に感動した原田さんは、自由宿題でマンガ化し、花丸をもらったそうです。その他にも「ドリトル先生」シリーズや、井伏鱒二、谷崎潤一郎、向田邦子などの作品・作家が挙げられました。ずっと本を読んで過ごしてきたという原田さんの10代20代の読書体験をお話いただきました。

ルソーとの出会い『楽園のカンヴァス』執筆について

2012(平成24)年に第25回山本周五郎賞を受賞した『楽園のカンヴァス』に関するお話もいただきました。原田さんがルソーと出会ったのは23歳の時。「ルソーは下手だと思ったけど惹かれるものがあり」、調べていくうちに「応援したい」という気持ちが原田さんの中に芽生えます。2000(平成12)年にニューヨーク近代美術館でリサーチャーとして6ヶ月間勤務された際に「いつか小説にしよう」と思い、ルソーの資料を集めたとのことです。また、大原美術館の実名を小説に登場させる許可を受けた際に、高階秀爾館長に解説を書いていただく約束をしたそうです。その約束が実現した文庫版『楽園のカンヴァス』は原田さんの人生の宝物。「ぜひ、解説まで楽しんで欲しい」とお話されていました。

最後に『楽園のカンヴァス』の「どんな人ごみの中でも、自分の大好きな友だちをみつけることはできるだろう?この絵の中に、君の友だちがいる。そう思って見ればいい。それが君にとっての名作だ。絶対に目を閉じちゃいけないよ」という一節が聴衆に贈られました。原田さんのアートや文学への愛情、創作に対する情熱が感じられる講演会となりました。



石毛 一郎 氏



話に聞き入る参加者

市史講座 2017.11.25 (土)

『もうすぐ50才！ 成田ニュータウンの地理的特色』



講師 石毛 一郎 氏 (県立佐原高等学校教諭)

今回の市史講座は、「成田ニュータウン」をテーマに取り上げました。

講師の石毛一郎先生は、人文地理学、新聞教育学 (NIE)、視覚障害教育学が専門であります。1988 (昭和63) 年千葉大学教育学部をご卒業後、県内の公立高等学校を歴任され、2012 (平成24) 年より佐原高等学校の教諭として勤務されております。

多忙な教職の傍ら、1995 (平成7) 年～1999 (平成11) 年には財団法人千葉県史料研究財団千葉県史編さん事務局において編さん業務に携わっております。

また、日本地理学会、日本地図学会、千葉地理学会、日本NIE学会などの多数の研究団体に参画されております。

主な著書・共著には『千葉県の歴史 別編地誌 (地域誌・地図集)』、『房総の地域ウォッチング』、今回のテーマに関する『千葉県企業庁事業の軌跡』などがあります。

先生は、2018 (平成30) 年度に計画から50年を迎える成田ニュータウンの成り立ちと特徴、地理的な視点での変容などを、企業庁の資料を紹介しながら講演されました。

「ニュータウン」はイギリスのロンドンにお

いて職住近接の新しいまちづくりとして始まりました。国内でもニュータウンが幾つかで、千葉県では県企業庁が主体となり、海浜・千葉・成田の各ニュータウンが開発され、成田は空港事業のため職住近接のニュータウンとして造成されました。

特色について、企業庁で作成した航空写真やDVD、地形図などを利用し、地形や造成による経年の変化や、当初計画の説明があり、機能面では各住区に学校、公園、ショッピングセンター、医療地区などを設け、周回道路を設定しバス路線を整備したこと、車歩分離に徹底したことなど成田ニュータウンの特徴を示されました。さらに、ライフパスと呼ばれる図を用いて、ニュータウンの住民の特性についても言及されました。

50年を経過し、都市部へのアクセスなどにより、成田ニュータウンの機能は職住近接以外でも拡大や多岐にわたっていくものと感想を述べられ、講演を終了しました。

最後に充実した質疑応答もあり、参加者の関心の高さがうかがえる有意義な講演会でした。

本館ミニ展示特集



本館1階「本の相談窓口」の前には、おす
職員イチオシの本が並び、皆様に立ち止ま
ここでは2017(平成29)年2月から2018

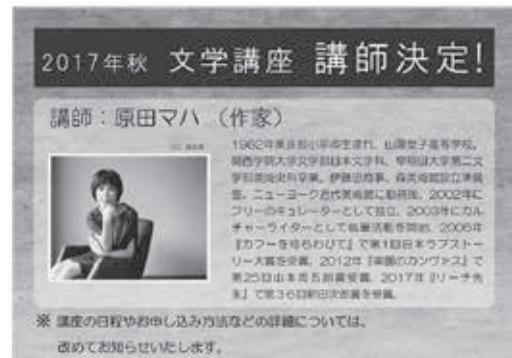
2017年 2月	バレンタインデー
3月	テラリウム
4月	将棋 ようこそ成田市へ
5月	おでかけスポットの本
6月	原田マハさん著作展示 (文学講座講師)
7月	
8月	図書館公式キャラクター 「ほんかり君」紹介展示
9月	原田マハさん著作展示 (文学講座講師)
10月	日常の謎
	赤ちゃんも絵本が大好き
11月	成田ゆかりの人々
12月	宮部みゆきデビュー30周年
2018年 1月	山下清展



2017年2月「バレンタインデー」

テラリウム
テラリウムは、19世紀ロンドンで
小さな箱の中で形成される植物
動物の飼育にも利用されてきました。
最近では、テレビ番組などでも
あります。
植物を入れる箱や瓶、植物や砂
ともできるため、手軽にはじめ
少しずつ春が近づいてきました。
小さな自分だけ世界を作って、

3月「テラリウム」



6、7月「原田マハさん」著作展示



8月「ほんかり君」



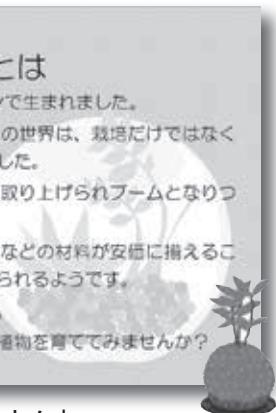
10月後半「赤ちゃんも絵本が大好き」



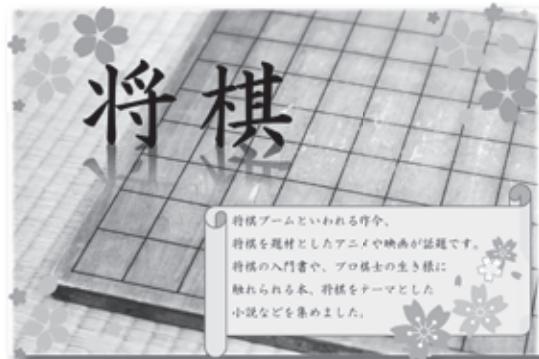
11月「成田ゆかりの人々」

すめのテーマに沿って厳選された本を並べるミニ展示コーナーを設けています。
っていただけるように工夫を凝らしています。ぜひご覧ください。
(平成30) 年1月のミニ展示を、展示ポスターや写真と共に振り返ります。

ミニ展示の本も
借りられます。



ウム】



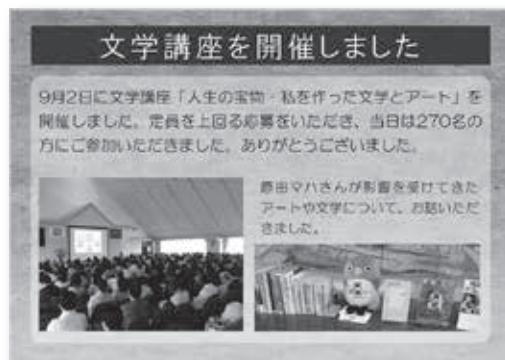
4月前半「将棋」



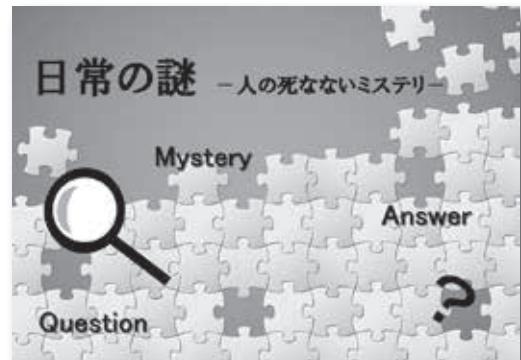
4月後半「ようこそ成田市へ」



【成田ゆかりの人々】紹介展示



9月 文学講座開催報告



10月前半「日常の謎」



【成田ゆかりの人々】



12月「宮部みゆきデビュー30周年」



2018年1月「山下清展」

杜のクリスマスおはなしかい

2017（平成29）年12月22日に、もりんぴあこうづ内の工芸スタジオで「杜のクリスマスおはなしかい」が開催されました。



クリスマスの絵本やおはなしを楽しんだ後、クリスマスツリーに飾るオーナメント作りをするという、いつもとは違った特別なおはなしかいです。16名の小学生が参加してくれました。

おはなしのろうそくがともると、おはなしがはじまります。



演目は、

「おいしいおかゆ」《おはなし》
「メリークリスマスおさるのジョージ」《えほん》
「小さな赤いセーター」《おはなし》

でした。



クリスマスオーナメントのサンタクロースです。ひげをつけ、顔を描いて、ベルトや帽子にビーズやスパンコールをつけたりして自分だけのサンタさんが出来上がりました。家に持って帰ってクリスマスツリーに飾りましょう。





音訳グループの紹介



図書館では視覚障がいがある人に、音で聞く本「録音図書」を貸し出しています。
「録音図書」は文章だけでなく、地図・写真・イラスト・図表なども音声で表現しています。

成田市立図書館では録音図書を製作するための「音訳協力者養成講座」を開催し、その講座を修了して、高い技術を習得した音訳者の皆さんに録音図書の製作を依頼しています。

成田市立図書館で現在活躍する音訳者は28名。定期的に勉強会を実施しながら、日々、技術の向上に努めています。



皆で協力して、より良い録音図書をお届けします。



成田市立図書館公式キャラクター

ほんかり君ぬりえ



2017（平成29）年8月より、本館・公津の杜分館・成田公民館図書室で、ほんかり君のぬりえとまちがいさがしを開催しました。ぬりえは77名に提出していただきました。秋にはハロウィン仕様のほんかり君も現れました。色とりどりに塗られたぬりえを見て、ほんかり君も大喜びでした。

まちがいさがしは、夏・秋・冬にそれぞれ8つのまちがいのあるものを用意し、大人から子どもまで、全体で約300名にご参加いただきました。

ぬりえ、まちがいさがしとも、たくさんのご参加をいただきありがとうございました。ぬりえの配布は1月末で終了となりました。各児童コーナーでの展示は3月末までです。

次回も、とびっきりのほんかり君イベントを企画します。ぜひ、ご参加ください！



本館児童コーナー



成田公民館図書室児童コーナー



公津の杜分館児童コーナー①



公津の杜分館児童コーナー②

編集後記

今年度は図書館公式キャラクター「ほんかり君」のぬりえ、まちがいさがしが大好評でした。

図書館では、皆さんにさらに親しんでいただけるイベント・展示を企画してまいります。「今はどんな企画をやっているかな？」と、ぜひ図書館に足を運んでみてください。

成田市立図書館だより

No.85

発行

成田市

編集

成田市立図書館

〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3

☎ 0476(27)2000

発行日

2018.3.31

登録番号

成教図 17-050



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。